

日本における少子化問題の深化と対策

【目次】

| | |
|-------------------------|--------------------------|
| はじめに | 第 4 章 先進国における少子化対策 |
| 第 1 章 日本の少子化と未婚率の現状 | 第 1 節 スウェーデンの少子化対策 |
| 第 1 節 少子化と未婚率の上昇 | 第 2 節 フランスの少子化対策 |
| 第 2 節 少子化・未婚化の原因 | 第 3 節 ドイツの少子化対策 |
| 第 3 節 日本の現状 | 第 4 節 先進国の少子化対策の検討 |
| 第 2 章 少子化が社会および経済に与える影響 | 第 5 章 日本における少子化対策 |
| 第 1 節 少子化が社会に与える影響 | 第 1 節 高福祉高負担国の経済 |
| 第 2 節 少子化が経済に与える影響 | 第 2 節 女性のライフサイクルと企業の経営効率 |
| 第 3 節 少子化の影響 | 第 3 節 少子化対策の新たな財源 |
| 第 3 章 少子化改善への取り組み | 第 6 章 少子化対策の課題 |
| 第 1 節 社会面での対策 | |
| 第 2 節 経済面での対策 | |

【目的】

今日、各種のメディアによって日本の人口問題が取り上げることが多くなってきた。しかしながら、問題提起ばかりでそこに明確な解決策はない。本論では、日本の社会を蝕む少子化問題は解決可能であるのか否か、について欧米での事例を参照しながら検討していきたい。そのために、まず、現在、どのような問題が日本には起きているのかを、データに基づいて検証してみる必要がある。また、現在実施されている我が国の少子化対策についても検証を加え少子化対策についても検証を加え少子化の解決策について考察していきたい。

【方法】

概存文献やインターネットなどから資料を収集し、概要を整理・分析した。本論文の目的を達成するために、日本における少子化対策の現状と問題点および課題についてデータを元に分析・考察した。

【結果】

少子化への対応は、労働、社会保障、教育、住宅、税制など、非常に広範囲にわたるが、中核となるのは、固定的な男女の役割分業や雇用慣行の是正と、育児と仕事の両立に向けた子育て支援である。また、企業が定年制や終身雇用、年功序列型賃金などの固定的な雇用慣行を改め、女性や高齢者などあらゆる個人がその意欲に応じて勤められるよう、性別や年齢による垣根を取り払う新たな雇用環境を創出していくことは、少子化の原因と影響への対応という点から極めて重要であり、人口減少社会への対応の基本となるだろう。特に、今後は、民間企業と国が一致して協力することが、少子化対策の絶対条件であり、対策が有効か否かもその点に委ねられるだろう。

【参考文献】

- United Nations Population Division, Department of Economic and Social Affairs
内閣府（2005）『平成 17 年度版少子化社会白書』、ぎょうせい。
原田 泰・鈴木 準（2005）『人口減少社会は怖くない』、日本評論社。
白波瀬佐和子（2005）『少子高齢社会のみえない格差』、東京大学出版会。
汐見稔幸（2003）『世界に学ぼう！子育て支援』、フレーベル館。
竹崎 孜（2002）『スウェーデンはなぜ少子国家にならなかったのか』、あけび書房。